

昭和改元 100 年記念

# 昭和の日出

2025 10/21(火) ▶ 2026 2/15(日)

主催 日出町歴史資料館・帆足萬里記念館 日出町教育委員会社会教育課

## コラム 第1話

### 油屋熊八と日出の開発

#### 1 「別府八景」に選ばれた日出海岸

昭和5年(1930)、別府市は観光地の新たな遊覧コース新設のために別府八景の選定を広く公募して、その投票を募りました。そして、投票結果を踏まえた審査委員による激論の末、八景・三勝の地と十か所の古蹟巡りのコースが選ばれたのです。

この中に日出海岸や松屋寺の蘇鉄も別府の名所として選ばれています。この背景には、油屋熊八を始めとする別府観光の関係者らが別府外の周辺名所も取り込んで、「大別府」として広くとらえていたことがあります。

同じく別府八景に選ばれた由布院盆地は、当時の観光客たちから「奥別府」と呼ばれていました。昭和初期における別府八景の選定事業を追っていきますと、別府の人々が日出地域もいわゆる「大別府」に内包される別府の観光資源の一つとして認識していたことがうかがえます。

#### 2 南端の地に建設されたゴルフ場

別府八景選定の際に活躍した油屋熊八は宇和島市の出身であり、別府には明治43年(1910)に移住しました。明治44年(1911)10月1日には熊八は亀の井旅館(現亀の井ホテル)を創業し、自ら「民衆外務大臣」と自称して別府の有志らとともに別府宣伝協会を立ち上げました。別府を温泉のある観光地として宣伝したいという熊八らの強い熱意によって、国内を始めアメリカや朝鮮、満州にまで観光地としての別府の宣伝を展開するに至ったのです。

別府八景が選定された昭和5年(1930)、熊八らは南端の地にゴルフ場を開きました。

当時、九州には大正2年(1913)に創業された雲仙ゴルフ場(長崎県雲仙市)以外にはゴルフ場はなく、日本にゴルフの文化は定着してませんでした。

近代の別府についてまとめた



油屋熊八肖像画

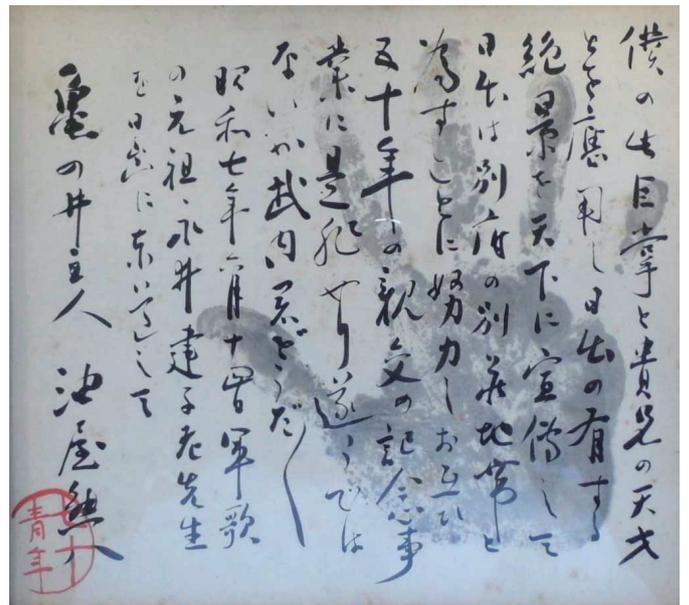
(大分県立先哲史料館蔵)

『別府今昔』によれば、大正15年(1926)正月2日での宴席の場において、熊八は知人の梅田凡平や宇都宮則綱に「野っ原で百万坪(330㎡)にてまとまったところはあるまいか。」と話を切り出し、ゴルフ場建設の構想を語りました。その構想を聞いた宇都宮はいつもウズ撃ちに出かける南端の高原を熊八に紹介しました。早速、宇都宮の案内で南端に出かけた熊八は広大な景色に心を奪われ、その翌日には大阪商船にゴルフ場建設資金を出してもらうために大阪に向ったことが記されています。

#### 3 日出の開発を呼び掛けた油屋熊八

昭和7年(1932)、油屋熊八から当時の日出町長である武内勢平に1枚の色紙が送られています。その色紙には熊八自慢の右手の手形が押され、本文では武内勢平に風光明媚な日出の地を別府の別荘地帯として開発、宣伝することを呼び掛けています。

色紙の文面からは武内勢平とは50年来の親交があることがわかり、日出の別荘地としての開発を勧める際も「お互い五十年の親交の記念事業に是非やり遂うではないか。武内君どうだ、どうだ。」と親しく語り掛けるような文面となっています。



油屋熊八手形色紙(大分県立先哲史料館蔵)

(梅野敏明 日出町歴史資料館・帆足萬里記念館)